

令和4年度 拜島第二小学校 教育課程 案 **解説編** Ver.1

「各種調査の結果・データ」、「これからの学校教育の方向」、「新学習指導要領」、「授業観察」、「先生方と日頃からディスカッションしている内容」に基づき、作成しました。まだ、案の段階ですので、疑問点・修正点・改善点がありましたら、遠慮なくご指摘ください。口頭でも、「朱」を入れてでも結構です。

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

社会や世界の状況を幅広く視野に入れ※1、よりよい学校教育を通して持続可能な社会※2を創るという理念の基、知・情・意・体の調和のとれた人間性豊かな児童※3の育成を目指す。

※1 社会や世界の状況=Society5.0時代：人工知能（AI）、ビッグデータ、Internet of Things、ロボティクス等の先端技術が行動化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる状況が生じつつある。

※1 地球規模の諸課題=飢餓・格差・感染症（新型コロナウイルス）の拡大・自然環境や資源の有限性・紛争

※2 持続可能な社会=「持続可能な開発」：「将来世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、現在のニーズを満たすような開発」

※3

- | | |
|----------|------------------------------------|
| ◎ よく考える子 | 自ら学び考え判断し、協働して問題解決を図る子〈知〉 |
| ○ 心ゆたかな子 | 自らのよさを見つめ、他者を尊重し、共によりよく生きようとする子〈情〉 |
| ○ 元気な子 | 自らすすんで挑戦し、最後までやり遂げる子〈意〉 |
| | 自らすすんで心と体をきたえ、たくましく生きる子〈体〉 |

※3 「自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協調して問題解決を図り、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人間の育成」

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

第2次昭島市教育振興基本計画※4に基づき、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、教育目標の実現を図り、児童に生きる力を育む。

※4 東京都教育ビジョン（第3次）を受けて、5点の柱から展開されている。①確かな学力の定着、②豊かな心の育成、③健やかな体、④輝く未来に向かって、⑤生涯学習の推進、以上5点から施策が展開されている。

ア 「よく考える子」を育て、確かな学力の定着と伸長を実現するために

(ア) 各種調査の結果分析に基づいたカリキュラム・マネジメント※5の充実を図ることにより、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等を育み、主体的に学習に取り組む態度※6を養う。

※5 カリキュラム・マネジメント

- ① 児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科横断的な視点で組み立てていくこと。
- ② 教育課程の実施状況を評価して、指導内容・方法の改善を図っていくこと。
- ③ 教育課程の実施に必要な人的・物的な資源を確保するとともに組織体制の改善を図っていくこと。

※6 主体的に学習に取り組む態度=① 知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面、② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面（セルフモニタリング・セルフトレーニング）⇒当事者意識をもち、自ら進んで学習しようとする主体的な学習態度を育成する。

(イ) 問題解決的な学習※7や体験的な活動、多様な人々との協働を促す活動を充実させることにより、協働的問題解決能力を育成する。

※7 問題解決的な学習は、次のような学習過程に特徴がある。

問題の把握 ⇒ 仮説の設定 ⇒ 追究1（自力解決） ⇒ 追究2（集団解決・学び合い） ⇒
まとめ・問題の解決・表現 ⇒ 振り返り ⇒ 新たな問題

第1表

- (ウ) 各教科等における各学年相互の系統性を吟味・検討し、教科横断的な視点※8から指導計画の編成・実施・評価・改善することにより、読み解く力※9や論理的思考力、情報活用能力を育成する。
- ※8 教科等を超えて、国語でも算数でも…体育でも、全ての教科等で、育成していく共通な資質・能力。本校では、一昨年度から、論理的思考力・情報活用能力・読み解く力の育成、主権者教育を展開している。
- ※9 ①目的に応じて、連続テキスト(文章)や非連続テキスト(図表、グラフ、写真等)から、必要な情報を正確に取り出す。②取り出した情報を、比較・関連付けて読み取る。③読み取った内容の意図や背景、理由を考えて、理解・解釈・推論して読み解く。

イ 「心ゆたかな子」を育て、広く世界にかかわり、共生社会を実現しようとする態度を養うために

- (ア) 道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな情操と道徳心※10を養う。
- ※10 道徳心：「多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続けられる」という心の構え。
- (イ) 集団宿泊活動やボランティア活動、体験的な活動を通して、自分の良さを認識し、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、共によりよく生きようとする態度を育成する。

ウ 「元気な子」を育て、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するために

- (ア) 各種調査等の分析結果に基づくカリキュラム・マネジメントの充実を図ることにより、体力向上と健康の保持増進を図り、児童が自ら進んで課題を把握し、解決しようとする資質・能力※11を育成する。
- ※11 コロナ禍において、運動や健康についての自らの課題を把握し、進んで課題解決しようとする(自立・自律)資質・能力を育成する。
- (イ) 地域の関連機関・団体との連携・協働を図り、地域の人的・物的資源を効果的に活用し、危機予測能力及び危機回避能力を身に付けさせる。

エ 輝く未来に向かう力を身に付けるために

- (ア) 昭島市民科(総合的な学習の時間)において、各教科及びSDGs※12との関連(クロスカリキュラム)を明確にした※13カリキュラム・マネジメントにより、主権者教育を中核に探究的な見方や考え方を働かせ、社会参画しようとする態度を養い、グローバルに考え、ローカルに行動できる人材を育成する。
- ※12 SDGs 2015年9月25日 国連で「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」採択。SDGs = 「持続可能な開発目標」17のゴール、169のターゲット、232の指標「ローカル且つグローバルな課題」

人間(People)	1 貧困	2 飢饉・食料	3 健康・福祉	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生
繁栄(Prosperity)	7 持続可能性・エネルギー・アクセス	8 産業・労働	9 インフラ・イノベーション	10 不平等	11 都市・居住空間の改善と災害対策	
地球(Planet)	12 生産と消費	13 気候変動	14 海の生物多様性・海洋資源の保全と利用	15 陸の生物多様性		
平和(Peace)	16 司法へのアクセス	17 グローバル・パートナーシップ				

SDQGsのゴール・ターゲット・指標と昭島市民科の課題を結び付ける!

- ※13 クロスカリキュラムとは、特定のテーマに関係するいくつかの教科・領域を相互に関連付けて学習するカリキュラムである。
- (イ) 昭島市特別支援教育推進計画に基づき、通級による指導との連携を強化し、校内委員会による情報共有と研修を強化し、一人一人の学習上又は生活上の困難が異なることに留意し、個に応じた指導の充実を図る。
- (ウ) 就学支援シートの積極的活用、スタートカリキュラムの実施、幼保・小中一貫教育を計画的に推進し、学びと自己のキャリア形成の方向性とを関連付けられるようにする。

オ 信頼される学校づくりのために

- (ア) 学校経営グランドデザイン及び教育課程、教員のマニフェスト(指導の重点)を公表(学校公開、ホームページ、説明会)し、説明責任を果たすとともに各種調査の分析結果及び改善点を公表し、結果責任を果たす。
- (イ) 組織的に、いじめ、不登校、事故の未然防止及び解消に努め、安全で安心な学校づくりを実現する。
- (ウ) 「学校の新しい生活様式」※14に則り、感染症対策や大規模災害発生時の対応等、あらゆる事態を想定した防災教育等を徹底し、安全教育の充実を図る。

- ※14 学校の新しい生活様式 (1) 基本的感染対策：①身体的距離の確保、②マスク着用、③手洗い、④不要不急の外出・移動はしない (2) 基本的な生活様式：①検温健康チェック、②3密の回避、③手洗い・消毒・咳エチケット、④適切な運動・食事、基本的な生活習慣の確立、(3) 日常生活様式：食事・買い物・公共交通機関、スポーツ等での様式(略)